



熊本大学本部棟貴賓室にて

私は、熊本大学は「熊本の財産」だと思っています。今までの歴史とか、例え学生次第だと思いますね。

先輩たちが築いてきた歴史に誇りを持つてでしょうか。

熊本大学、学生たちに求めたいことは何でしょうか。

大学ではいろいろな体験ができる。知的な体験、経験もそうですし、自分が飛躍させる材料が山のようだ。これを抜く、ということを最優先とする点では、嫌われても苦渋の決断をする。それがリーダーだろうと思います。

最初の判断を変えないといけない場面も出てきます。リーダーシップとは、方針を転換する時に、勇気を持てるかどうか。自分が言つたことの、間違いを認める勇気、失敗を認める勇気がないとダメだと思います。

察をしてもらえば、それは後世に残る研究になるのではないかでしょう。

リーダーは、間違ったと思った時に、いかに転換できるか、という点も重要です。リーダーは、苦渋の決断をするからリーダーであって、そんなに悩まなくてもいい時に決断をするのであれば、リーダーシップというよりは、みんなで仲良く決めればいい。

原田 リーダーは、どんな決断をしても批判される。

大西 そうです。それをやり抜く覚悟。どんな決断であっても熊本市民を守り抜く、ということを最優先とする点では、嫌われても苦渋の決断をする。それがリーダーだろうと思います。

大西

大学ではいろいろな体験ができる。知的な体験、経験もそうですし、自分が飛躍させる材料が山のようだ。これを抜く、ということを最優先とする点では、嫌われる勇気、失敗を認める勇気がないとダメだと思います。

熊本大学、学生自身の意志であり、大学生活を生かすも殺すも

学生次第だと思いますね。

私は、熊本大学は「熊本の財産」だと思っています。今までの歴史とか、例え学生次第だと思いますね。

トツ。プロの決断はリスク評価が力ギ。 まずは、説明責任。

熊本大学長 原田信志
HARADA Shinji

熊本市出身。熊本大学医学部卒、熊本大学大学院医学研究科（博士課程）修了。マサチューセッツ大学医学部病理学教室医学研究員、ネブラスカ大学医学部病理学教室アシスタントプロフェッサー、京都大学助教授などを経て1989年熊本大学医学部教授に着任。エイズ学研究センター長、大学院医学薬学研究部長、同生命科学研究部長、理事・副学長などを歴任。2015年4月学長に就任。専門は感染防御学。

ば五高記念館もそうだし、先輩たちが築いてきた空氣感というか、伝統というもとに自信を持って、誇りを持ってほしい。もう一つ、地域づくりという点では、熊本大学の皆さんも熊本市民でいらっしゃるので、ぜひ市政にも関心を持つていただきたい。苦情でもいいです、どんどん提言していただきたい。熊本大学と熊本市はこれからも、未来に向けて連携を深めていきたいと思います。

原田 おっしゃる通りで、私も熊本大学の歴史を重視しています。五高記念館も、地震の時は復旧に苦労しましたが、皆さまから支援していただきました。現在、五高記念館を中心とした博物館構想を進めています。できれば、熊本城と五高記念館をセットにして、学生だけなく熊本市民に楽しんでいただける、熊本



熊本市は感染症専門医育成の寄付講座を熊本大学病院高度医療開発センターを開設。2020年11月8日、記念式典がありました。

教育ICT化の推進に
大西 私は、熊本大学で学生さんを教えたり、年1回話に来たりしていました。そういったことを通して、熊本大学の中に、将来自治体で頑張りたいとか、地域でリーダーになりたいとか、そういう希望を持つている人は結構いらっしゃいました。

若い人たちが持つリーダー像があります。今、リーダーは不祥事など、どちらかというと叩かれる話が多い。でも、やっぱりそれでも理想のリーダー像を見ながら、そこを目指したいと思ってほしいですね。憧れられる存在、

大西 それなら、1万通りのリーダー像に触れられる。学生さんたちはコロナ禍で非常に厳しい状況だけど、希望をもってほしい。コロナ禍の中でリーダーの研究をしてもいいと思います。市長のこの判断が間違っていたとか、こういうアプローチもあつたとか、批判的考

は必要だと思います。学生さんとの対話の中で、「リーダーとはこうなければいけない」と思われる立場が人を作っていくということがあります。私は市長になつて見えられた景色が変わったというか、視点が変わったというのはあると思います。熊本市のことだけ考えていればいいわけではなくて、全国を見て、そして世界を見ながら、この熊本という自治体をマネジメントしないといけないと。そして未来に向けて方向付けをしないといけない。

憧れを持って見てもらえるようにあります。かつこよく振る舞うということではなくて、生き様というか、行動とソースを吹き込んでいただきたい。

原田 熊本大学も、いろんな地方自治体と連携を結びました。地震の時は、益城町に熊本大学まきラボを作つて、復興のお手伝いをしています。昨年12月に多良木町、今後、八代市と協定を結ぶ予定です。県の北部は工業地帯ですから、いろんな企業と連携を結んでおり、長洲町に工場をもつ日立造船株式会社もその中の一つです。

熊本市長 大西一史氏
ONISHI Kazuhumi

熊本市出身。日本大学文理学部心理学科卒。九州大学大学院法学院法政理論専攻、博士後期課程単位修得退学。1992年日商岩井メカトロニクス（株）入社、その後衆議院議員秘書を経て1997年より熊本県議会議員を5期務める。2014年、熊本市長に当選。現在2期目。趣味は、読書、音楽鑑賞、ドラマ演奏など。

原田 大西市長が言われたように、学生、あるいは若い教職員とできるだけ接触をして、自分の背中を見てもらうと、これが一番いいのかなと思いますね。熊本大学の学生さんは何人ですか。

原田 学生は約1万人です。

大西 それなら、1万通りのリーダー像に触れられる。学生さんたちはコロナ禍で非常に厳しい状況だけど、希望をもってほしい。コロナ禍の中でリーダーの研究をしてもいいと思います。市長のこの判断が間違っていたとか、こういうアプローチもあつたとか、批判的考

は必要だと思います。大学はそういう、いろんなチャンスや新たな機会を得るところ。自分では考えていないなかつたような発想に触れられる。学生さんたちはコロナ禍で非常に厳しい状況だけど、希望をもってほしい。コロナ禍の中でリーダーの研究をしてもいいと思います。市長のこの判断が間違っていたとか、こういうアプローチもあつたとか、批判的考

は必要だと思います。学生さんとの対話の中で、「リーダーとはこうなければいけない」と思われる立場が人を作つていくということがあります。私は市長になつて見えられた景色が変わったというか、視点が変わったというのはあると思います。熊本市のことだけ考えていればいいわけではなくて、全国を見て、そして世界を見ながら、この熊本という自治体をマネジメントしないといけないと。そして未来に向けて方向付けをしないといけない。

原田 大西市長が言われたように、学生さんとの対話の中で、「リーダーとはこうなければならない」と思われる立場が人を作つていくということがあります。私は市長になつて見えられた景色が変わったというか、視点が変わったというのはあると思います。熊本市のことだけ考えていればいいわけではなくて、全国を見て、そして世界を見ながら、この熊本という自治体をマネジメントしないといけないと。そして未来に向けて方向付けをしないといけない。

原田 学生は約1万人です。

大西 それなら、1万通りのリーダー像に触れられる。学生さんたちはコロナ禍で非常に厳しい状況だけど、希望をもってほしい。コロナ禍の中でリーダーの研究をしてもいいと思います。市長のこの判断が間違っていたとか、こういうアプローチもあつたとか、批判的考

は必要だと思います。大学はそういう、いろんなチャンスや新たな機会を得るところ。自分では考えていないなかつたような発想に触れられる。学生さんたちはコロナ禍で非常に厳しい状況だけど、希望をもってほしい。コロナ禍の中でリーダーの研究をしてもいいと思います。市長のこの判断が間違っていたとか、こういうアプローチもあつたとか、批判的考

は必要だと思います。学生さんとの対話の中で、「リーダーとはこうなければならない」と思われる立場が人を作つていくということがあります。私は市長になつて見えられた景色が変わったというか、視点が変わったというのはあると思います。熊本市のことだけ考えていればいいわけではなくて、全国を見て、そして世界を見ながら、この熊本という自治体をマネジメントしないといけないと。そして未来に向けて方向付けをしないといけない。

原田 学生は約1万人です。

大西 それなら、1万通りのリーダー像に触れられる。学生さんたちはコロナ禍で非常に厳しい状況だけど、希望をもってほしい。コロナ禍の中でリーダーの研究をしてもいいと思います。市長のこの判断が間違っていたとか、こういうアプローチもあつたとか、批判的考

は必要だと思います。学生さんとの対話の中で、「リーダーとはこうなければならない」と思われる立場が人を作つていくということがあります。私は市長になつて見えられた景色が変わったというか、視点が変わったというのはあると思います。熊本市のことだけ考えていればいいわけではなくて、全国を見て、そして世界を見ながら、この熊本という自治体をマネジメントしないといけないと。そして未来に向けて方向付けをしないといけない。

原田 学生は約1万人です。